

れ去ることはしないでしょ。保護者やガードマンに連絡が入ったとしても、事件に巻き込まれた場合に、どれだけ有効な対応をすることができるでしょうか。システムを逆手に取って犯罪に利用される可能性すらないとは言えません。

子どもに教える安全のための心得に「いかのおすし」というのがあります。「知らない人についていかない」「知らない人の車にのらない」「おおきな声で、すぐにしらせる」というわけで、誘拐などの被害にあわないように気をつけようというよびかけです。「知らない人は悪い人かもしれないから、なるべく関わらないように」ということが、子どもたちに強く教えられています。道を聞かれても、答えないで逃げた方がいいと言う風潮です。しかし、こういうことばかりを強調すると、「通学路ではだれともかかわらないで脇目もふらずに歩きなさい。」ということになってしまいます。

もしも悪意の人物が危害を加えようと近づいてきた場合、小学生が自分だけの力で逃げるができるでしょうか。そして、加害者となるのは、知らない人とはかぎりません。初めから知らない人に関わらないようにすることより、悪い人とそうでない人を見分ける力をつけたり、必要なときは近くににいる知らない人にでも助けを求めたりできるようにすることの方が大切なような気がします。もし、通学路の途中で毎日出会う大人の人たちと仲良くなっていれば、その人たちの目で守ってもらえることにもなるでしょう。人とのつながりを断つことでなく、上手につながりを作って行くことがより安全を守ることになると思います。

◆ 個人情報

毎年、1年生からたくさんのかわいい年賀状をもらっていたのですが、今年はそれがありません。子どもたちが、私の住所を知らないからです。以前は、児童生徒だけでなく職員の仕事等も載った全校名簿が発行されていたのですが、今はそれがありません。

昨年4月に施行された「個人情報保護法」は、学校にいろいろな波紋を呼び起こしました。学校でも個人情報の取り扱いに厳しく注意を払うことが義務づけられ、児童生徒の情報が漏れることのないように、いろいろな対策がとられました。全校の名簿はもとより、学級の名簿も配付しない学校が増えました。緊急時のための電話の連絡網でさえ、自分の前後の電話番号しか分からないようにしている学校もあります。ある学校では、電話連絡網も廃止して、緊急時には学校から一斉にEメールを配信するシステムを導入しました。



電車通学

私の学校では、学級の名簿は家庭に配付しています。私立学校の場合、同級生が近所の知り合いという場合は少ないので、名簿がクラスメートを知る大きな手がかりになります。だれが近くに住んでいるのか、同じ電車に乗るのはだれなのか分からなければ、通学の安全のために協力することも難しくなります。この難しい時代に力を合わせて子どもを育てて行くには、お互いを知り、仲良くなっていくことがどうしても必要です。電話番号すら知らないのでは、通学路の障害に気が付いて知らせてあげることも、子ども同士のトラブルを解決するために親同士が相談することもできません。

☆

「安全」と「個人情報」が、今の日本の学校を揺さぶっています。いろいろな対策を講じることは確かに必要なことなのですが、それが人と人との結びつきを弱めることになれば、その結果はかえって悪い方向に行ってしまうのではないかと心配です。世界中では、大都市で1年生が一人で電車やバスに乗って通学するなど考えられないという方が普通かもしれません。日本のそれが昔話にならないようにしたいものです。渦中にいる私たちより、海外に住んでおられる方々の方が冷静な目でこの問題を見ることができるかもしれません。どんな風にお感じになるか、聞かせていただけたらと思います。

編集長から一言

「安全神話」の崩壊が、日本社会のいたるところで現れ始めました。今回は、学校現場での例です。

学校内や通学路で、児童が巻き込まれる事故が多くなってきました。ある学校で私と先生が面談中、「通学路に不審人物」という連絡が入り、その先生が脱兎の如く下校中の児童の安全確認に飛び出していった、という経験をしました。

現地校では、授業が終わって下校を始めたときから、子どもの安全は保護者の責任です。登下校の児童の安全に気を配るという指導以外の学校業務が、日本の先生方には、また一つ増えてしまいました。